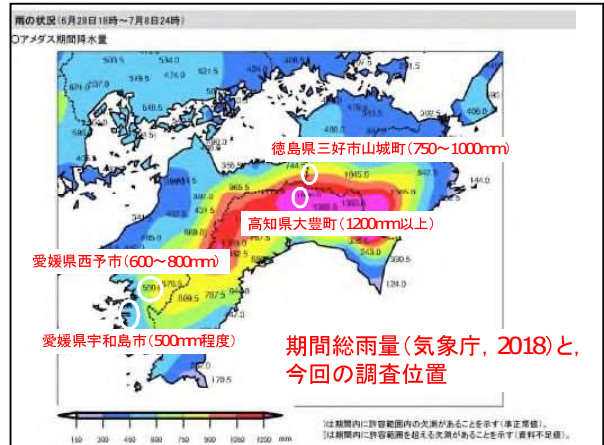


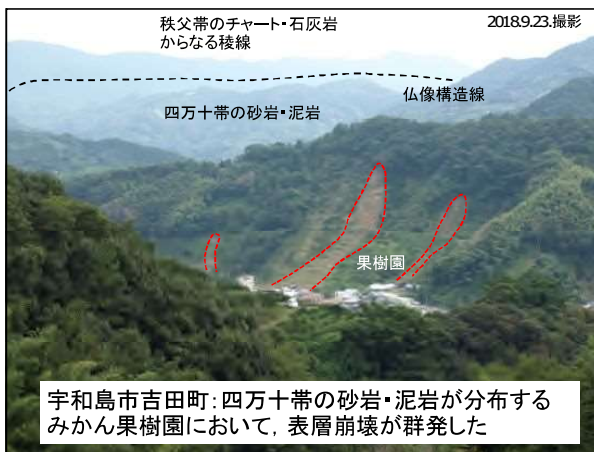
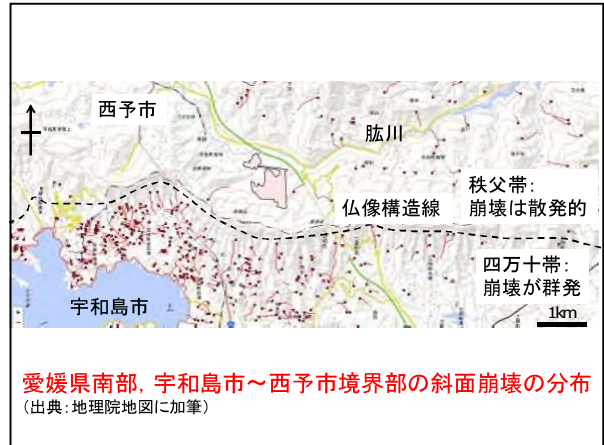
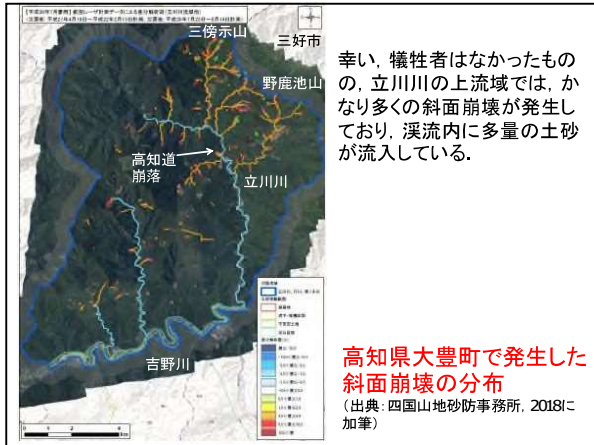
3. 四国地区で発生した土砂災害 四国班 西山賢一（徳島大学）

四国地区で発生した土砂災害
西山賢一（徳島大学）
日本応用地質学会災害調査団 四国班
（讃岐利夫・東 豊一・大矢基弘・谷野宮電浩・木村一成・岡村 洋）

- 徳島県三好市山城町・・・7/13に調査を実施
（徳島大学環境防災研究センター・建設環境研究所と共同）。
- 高知県大豊町・・・8/3に調査を実施。
（高知大学笹原教授と共同）
- 愛媛県宇和島市・西予市・大洲市・・・9/22-24に調査を実施。
四国地区の合同災害調査として、災害地質部会・応用地形学委員会も参加。









四国地区の土砂災害の特徴

- 豪雨常襲地域の四国中央部(三好市山城町・大豊町)
…三波川帯の片岩が分布。総雨量1,000mm程度もしくはそれ以上の豪雨となったが、崩壊は散発的。
- 高知道の橋梁を落橋させた崩壊の滑落崖直下には、断層破碎帯が分布している。
- 四国内としてはそれほど雨量が多くない愛媛県南予(宇和島市・西予市)
…四万十帯および秩父帯の付加体堆積岩が分布。
- 四万十帯分布域のうち、果樹園では表層崩壊が群発。
- 崩壊深さが10m以上の深い崩壊も散発的に発生した。これらの滑落崖付近には、しばしば高角のせん断面や、沸石と思われる粘土脈が密集した分離面が認められる。
- 秩父帯では、崩壊が散発的に発生。上成地区では、強風化砂岩とそれを覆う古い崩壊堆積物が、今回新たに崩壊した。